

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 6 月 27 日 (2019.6.27)

【公開番号】特開 2018-7128 (P2018-7128A)

【公開日】平成 30 年 1 月 11 日 (2018.1.11)

【年通号数】公開・登録公報 2018-001

【出願番号】特願 2016-133925 (P2016-133925)

【国際特許分類】

H 0 3 M 1/38 (2006.01)

【F I】

H 0 3 M 1/38

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 23 日 (2019.5.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 8】

図 9 は、上限値レジスタ 5 3、下限値レジスタ 5 4、拡張コードレジスタの動作を説明する図である。図 9 に示したように、制御回路 5 0 は、前回の A / D 変換結果データに対して、片側変換範囲初期値を加算したデータを上限値として上限値レジスタ 5 3 に保存し、前回の A / D 変換結果データから、片側変換範囲初期値を減算したデータを下限値として下限値レジスタ 5 4 に保存する。ここでの片側変換範囲初期値とは、上記所定の範囲の幅の 1 / 2 の大きさに対応する値である。すなわち、図 9 に示した初期化により、変換範囲の初期値を、前回の A / D 変換結果データを中心とする所定の範囲とすることが可能になる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 9】

制御回路 5 0 は、ステップ S 3 0 5 の冗長コードの更新の後、冗長コード = 0 であり、且つ、微小信号判定回路 9 0 からの微小信号フラグ S F L A G がハイレベルであるかを判定する (ステップ S 3 0 6)。なお、微小信号フラグ S F L A G とは、微小信号判定回路 9 0 により、アナログ入力信号 V I N と、D / A 変換回路 D A C からの出力信号 D Q との差が所与の閾値よりも小さい、すなわち微小信号であると判定されたか否かを表すフラグである。ここでは微小信号と判定された場合に S F L A G = H となる例を示したが、この点は種々の変形実施が可能である。

【手続補正 3】

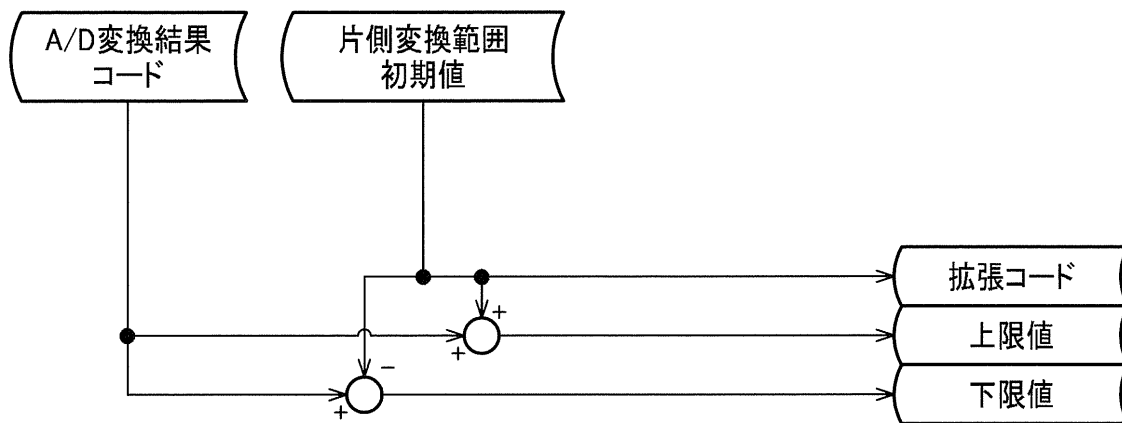
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 9 】



【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 1 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 図 1 3 】

